そして、バトンは渡された

著者名	瀬尾 まいこ	発行年	2018年
出版社名	文藝春秋	ページ数	372ページ
値段	1,728円	ISBN	978-4163907956
コメント	おめでとう本屋大賞2019。 わけあって、おとうさんが３人、おかあさんが2人。極端な状況を設定しながらも、派手さやエグさはありません。こまやかな心理描写とお料理描写で、家族のかたちをしみじみ問いかける、みたいな。森宮さん（パパのほう）のキャラクターがいいなあ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
落差 ☆☆☆☆	おそらく書店等で見たのだと思うが、食事の表現を通して家族や人と人との関係が描かれていて素敵だという評価をされているのを見たうえで読んだのだが、確かに何かを食べたながらなされる会話や心情の動きはとても面白く、また、新鮮でもあったが、私自身が如何せん食事に魅力をあまり感じない人間であるため面白いという以上の印象を抱けなかった。その一方で、立ち読みポイントとしても挙げた早瀬君というキャラクターが奏でるピアノの音を初めて聴く主人公の心情の描写に寧ろ私は心踊らされた。合唱祭という一連の出来事を読み切った後には早瀬君を好きになる主人公の気持ちに感情移入しきっていたら次のシーンで全く知らない名前の「彼氏」が出てきて面食らった。これは憶測だが、父親の森宮さんが娘に彼氏が出来たと言われた面食らうのと同じ感覚を読者が体験できるよう敢えてこういった時間軸で物語を進めているのだと思う。私はまんまと引っかかった気持ちでいる。 全体的な物語の内容を振り返ってみると一章の主人公の気持ちに感情移入がしやすくて驚いた。彼女のような家庭環境ではないが、例えるなら海に一人放り出されているような充足感と不安定さというようななんとも不思議な気持ちに何となく身に覚えがあった。作者の瀬尾まいこの文章表現がそう感じさせてくれているのかとも考えたが、最後の森宮さんの「(中略)たぶん、優子ちゃんの故郷はここだよ」という台詞で腑に落ちた。帰属意識を持てないときの気持ちに近いのだと思う。私は引っ越しを何度か経験しているので今でも「地元どこ？」と聞かれると少し迷う。でも別にそのことを悲観的には捉えていない。親が替わることと住む場所が変わることを同義にしてもいいものかとは思うが、親にも住んでる場所にも限らず様々な背景を経て今の自分がいるのだと改めて実感した。私も沢山バトンを渡され、繋がれてきたのだということかもしれない。	全部	420P (300分)	188-189	2020/11/30 08:05:50

ＴＯＰへ

ノースライト

著者名	横山 秀夫	発行年	2019年
出版社名	新潮社	ページ数	429ページ
値段	1,980円	ISBN	978-4104654024
コメント	家を建てる。その大きなプロジェクトにまつわる仕事人たちの気合いや人生観が、しっかり造型されていて入り込んでしまいました。 不可解な悪人も、凄惨な殺人現場もなしの、おだやかなミステリーが、「ノースライト」という美しいタイトルにふさわしい逸品です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
みちみち ☆☆☆☆☆	この本は、建築士である主人公青瀬の一人称によって描かれています。青瀬は数年前に妻のゆかりと離婚し現在は一人暮らし。娘の日向子とは月一度の面会のみと寂しい生活を送っています。そんな中、数か月前に青瀬が建てた家にだれも住んでいないことが発覚します。消えたクライアントを探すことになった青瀬は様々な困難に直面しながらも事件の真相に迫っていきます。 消えたクライアント探しを軸にして、離婚したゆかり、主人公が学生だった頃に亡くなった父親までもが絡み合い常に自分の予想を裏切ってくれる展開でとても面白かったです。この事件の真相を突き止めたことで、主人公に影を落としていたゆかりとの関係も（本には書かれていないですが）今後の明るい展開を想像させるようなものとなったと感じました。 また主人公の大学の同期で事務所の所長である岡嶋に関わるエピソードの数々も、人間の醜い部分やそれとは逆に美しい面など多くのものを見せてくれたような気がしました。				
		1-429	429P (360分)	全部	2020/11/03 14:58:13

ＴＯＰへ

刀と傘 (明治京洛推理帖)

著者名	伊吹 亜門	発行年	2018年
出版社名	東京創元社	ページ数	256ページ
値段	1,870円	ISBN	978-4488020064
コメント	幕末から明治維新へと動く時代の空気感を呼吸しながら、謎解きもできる「二兎を追う」仕様が、お得です。加えてメインキャラの江藤新平（実在の人物）も鹿野師光（架空の人物）も屈折しまくった武士で、その暗い陰翳も、ステレオタイプのミステリーに飽きた通人さん、いかがですか？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
とっとこハム次郎 ☆☆☆☆☆	伊吹亜門先生のデビュー作品！ デビュー作品でありながら、洗練された世界観が読者を引きこみます。 幕末という激動の瞬間を刻む時代小説の側面を持ちながら、若き 尾張藩士とあの江藤新平が時代の転換期に起きる事件を解いていくミステリーである新感覚の作品です。 時代背景と物語が秀逸に絡め合わせられており読んでいてとてもジューシーな作品になっています。きっと歴史好きにはたまらないはず！ 19世紀が物語の舞台なので、科学捜査などは当然存在しません。それゆえ、現代が舞台となっているミステリーとはまた違った趣が感じられます。人間同士の関係をより重視していて新鮮な作品です。 江藤新平は歴史上の人物ですが、作品を読むと彼について史実を勉強したくなります。また、幕末についてもっと知りたくさせてくれる本です。連作の短編の集まりが5つ集まっているので一つ一つをあっという間に読了できるので気軽に手にしてほしいです。 是非、読んでみてください。	1-259頁	259P (240分)	7-60頁	2020/11/29 11:13:34
ウル ☆☆☆☆	態度は傲慢だが鋭い洞察力と舌鋒を持つ男、江藤新平。 普段は寡黙だが確かな能力と信念を持つ男、鹿野師光。 この作品は大政奉還直後の激動の時代に、彼らの周りで起こった5つの殺人事件を描いた時代劇ミステリー小説である。前半の事件で互いを認め合い相棒のような関係になる二人の関係が、後半どのように変わっていくかに注目して読むと面白い。 構成は非常にわかりやすく、事件ひとつにつき一章が対応しているので小説を普段読まない人でも読みやすいだろう。 ただし、実際の歴史に基づいた人名や藩名も多々出てくるので、最初に小説の世界に入り込むまでに時間がかかるかもしれない。しかしいったん話に入り込むことができれば歴史に関する知識がなくても登場人物が事件をテンポよく推理していく過程を楽しむことができると思う。 ミステリー小説でありながらそれほど読みづらくもなく、登場人物の感情の機微も描かれていて読んでいて満足感があった。読み終わった瞬間に、え！？これで終わり？！となったが、その背景に				

	隠された登場人物の心中を考えると・・・ ここからはぜひ自分の目で確かめてほしい。			
	1-259ページ	259P (180分)	63－70	2020/11/04 00:37:42

ＴＯＰへ

線は、僕を描く

著者名	砥上裕將	発行年	2019年
出版社名	講談社	ページ数	322ページ
値段	1,650円	ISBN	978-4065137598
コメント	略称「センボク」。「ボクセン」じゃない、つまり「ボク」じゃなく「セン」が主語、自分じゃなく作品がメインっていうコンセプトがミソと読みました。水墨画という珍しい世界を軽やかに覗かせてくれます。描いてみたくなるかも。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
unknown ☆☆☆☆☆	ささいなことから有名な天才水墨画家の弟子となった主人公の青山霜介は水墨画を通じて生き方を学ぶというストーリー。霜介はあることをきっかけに自分の殻に閉じこもってしまい、あまり食事をとらなかったり感情をうごかさなかったりとずっと塞ぎ込んでしまっていた。心の中にあるガラスの部屋などの霜介はの心理描写と成長がこの話の読みどころの１つである。霜介は観察する力がものすごくそこを認められて弟子としてスカウトされる。読めばわかることなのだが、霜介の観察眼もすごいが湖山先生の観察眼もすごい。様々な個性を持つ絵師たちが現れ、彼ら自身も様々な課題に直面している。また、この主人公は大学にも属しており、文化祭やサークルといった我々に身近な話も出てくる。大学の友人たちの話には「これいるか？？」と思うような場面もあったが、彼らのかわいらしさが描写されており、聞きなれない難しい内容である水墨画という題材の緩和剤となってくれている。絵師たちはそれぞれ達人の域に達しているため言うこと成すことがとてもためになる。感動してしまうような言葉や人生の指針になってしまうような言葉も多く語られていた。 始まり方、終わり方がきれいで読んでいて後味がよかった。 読んでいてこの話の世界に没入してしまった。	全部	317P (240分)	6-33	2020/10/28 22:24:29

ＴＯＰへ

熱源

著者名	川越 宗一	発行年	2019年
出版社名	文藝春秋	ページ数	426ページ
値段	2,035円	ISBN	978-4163910413
コメント	直木賞受賞の歴史小説って聞くと重厚さを想像しますが、群像劇なので、そう肩が凝るというほどではありません。アイヌ、サハリン、リトアニア。暑い夏にちょっと北方を旅してみましょうか。歴史蘊蓄も増えます。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム　　コメント

お勧め度　　読んだ場所　　読んだページ数（時間）　　立ち読みポイント　　投稿時間

ＴＯＰへ

カササギ殺人事件　上・下

著者名	アンソニー・ホロヴィッツ	発行年	2018年
出版社名	創元推理文庫	ページ数	727ページ
値段	2,160円	ISBN	978-4488265083
コメント	どっぷりミステリーしたいかたに。 2018年暮れののミステリー界総括は、どのランキングもこの本が燦然と一位に君臨しておりました。これだけ圧倒的に評論家と読者の絶賛を浴びるのは珍しい。 期待は（たぶん）裏切られません。上巻ではまって読み進んで、下巻の冒頭でいきなりはぐらかされて、そこからまたのめり込んでの二重構造。精緻なつくりこみに感嘆しつつのエンディングです。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	読んだ場所	コメント 読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間

ＴＯＰへ

三体

著者名	劉 慈欣	発行年	2019年
出版社名	早川書房	ページ数	448ページ
値段	2,052円	ISBN	978-4152098702
コメント	ご存知でした？　three-body problem＝３体問題。３つの星の運行は予測できないんだとか。それをモチーフに、理系ネタを織り込んで、政治ネタも絡めた中国発の異色ＳＦが、ただいまヒット中です。 異世界描写の奇天烈さに唖然としているうちに、物語はぐんぐん加速して・・・え？　終わらない？　三部作？？　だいじょうぶ、終わってなくてもトリップできます。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
pu ☆☆☆☆	世界的ベストセラーとなった中国SF小説。以前父に薦められ、気になっていたが今回、指定図書ということで読んでみた。1970年代の中国文化大革命期の壮絶で惨虐な展開から始まり、一気に世界観に引き込まれた。レイチェル・カーソンの「沈黙の春」や中国政治、解のない「三体問題」などを織り込んだリアルに近い側面と、謎多きVRゲーム「三体」や異世界世界などのファンタジーの側面が見事に融和している。 非科学的な超常現象を体験し、未知なる恐怖を味わう研究者の主人公が、VRゲーム「三体」を通して謎に迫っていくストーリーであり、特にVRゲーム内での展開は緊張感があってとても面白い。 嬉しいことに3部作あるこの作品の最後まで読まなくても、第一部の中である程度謎が解明するので、長編小説だからといって身構えなくてもいいところも良い点である。 作者の劉慈欣(りゅう・じきん/リウ・ツーシン)はエンジニアとして長年働いていた経験があり、理系に関する知識が豊富なため、一瞬SFであることを忘れてしまうようなリアリティがこの本にある。突拍子もないファンタジーが嫌いと言う人でも楽しめるだろう。	全部	447P (600分)	9-23ページ、106-124ページ	2020/10/24 00:02:34
totoro ☆☆☆☆	一言で表現するなら，超大作．ーそんな言葉が似合う作品だった．もともと中国に興味があったのもあり，本屋で目にしてから何となく惹かれ，気になっていた「三体」．読んでみたいとは思ったものの，あまりの超大作になかなか手が出せずにいた．そんな折に，指定図書に「三体」の名前を目にし，意を決して読んでみたのが始まりだった． 読んでみた感想は，「深い」．もちろん中盤でSF的な怒涛の展開で盛り上げる要素はあるのだが，それ以上に，緻密に計算され尽くして描かれているのが伺い知れ，なにやら考えさせられるような，終始パズルを解いているような感覚がある．三体問題をテーマの中心として捉えるところも興味深いし，物理学を始めとした現代の科学技術をキャッチアップしていて，知性を感じさせる構成．それでいて，ただのテクニカルな話ではなく，独特などこか宇宙的な価値観を想沸させる終末論の考え方．今まで読んだことのないタイプの本だと感じた． この本は，好みが分かれる本だと思う．しかし，一度読み始めたら最後まで読まずには居られない．三部作の後半，続編にも期待したい．				

	全部	447P (480分)	196-205	2020/10/16 22:26:41

ＴＯＰへ

三体? 黒暗森林　上下

著者名	劉 慈欣	発行年	2020年
出版社名	早川書房	ページ数	336ページ
値段	1,870円	ISBN	978-4152099488
コメント	宇宙スケールの発想の秀逸、ロジックもしっかりしてて、派手な見せ場も楽しめて。三部作のまんなかにして上下2巻のぶあつさ。でも挑戦する価値ありです。第一作を読んでいなくてもだいじょうぶ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
totoro ☆☆☆☆☆	まさしく一気読みをしてしまった，寝不足の一冊だった．これは私にとって，本に対する最高の評価である．「三体II黒暗森林」は，前作の「三体」を読み終えて抱いていた期待を明らかに超えてきて，展開から目が離せなかったのだ．地球の生存をかけて行われる，世界規模の巨大なだましあいと謎解きゲーム．地球人と三体人の決定的な違いを浮彫りにする問題設定に，ここまで考えて前作のストーリーが展開されていたのかと，うならざるを得ない．登場人物の始点が次々と投影されていくスピード感と，謎が解き明かされていくスリル．さらに，技術的な進歩により物語のスケールもどんどん加速していくその様子は，まさにジェットコースターに乗り，映画館の音響の中で壮大な旅をしているようだった． 今なら，本の帯に書かれた，「あの『三体』はほんのプロローグでしかなかった！」という，訳者の気持ちが分かる．絶望感溢れる衝撃的な展開の中に知性と優しさを感じさせるストーリーはまさに最高傑作で，読まなければきっと損をするーそんな感想を抱かせるほどだ．ああ，三部作の最終章「三体III死神永生」の翻訳が，来年春まで待ちきれない．絶対に手にとってみてほしい，おすすめの三部作です．	上下巻全部	683P (600分)	203-217, 320-333	2020/10/17 23:21:13

ＴＯＰへ

息吹

著者名	テッド・チャン	発行年	2019年
出版社名	早川書房	ページ数	432ページ
値段	2,090円	ISBN	978-4152098993
コメント	ユニークな切り口のSF短編集。方向性がバラバラ（良く言えば多様性）なので、まず、2編めの「息吹」に目を通して、おもしろいなと思ったら次の作品探し、という入り方が良さそうです。「息吹」は科学のアナロジーとして、とてもおもしろかった。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	読んだ場所	コメント 読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間

ＴＯＰへ

火星の人　上・下

著者名	アンディ・ウィアー	発行年	2015年
出版社名	ハヤカワ文庫SF	ページ数	1,280ページ
値段	631円	ISBN	978-4150120436
コメント	リアルで破天荒。矛盾する要素がちゃんと並存しています。 火星の過酷な環境をしっかり踏まえ、ムチャなご都合主義はいっさいなく、とてもリアルに孤独なサバイバーを追っかけながら、ストーリー展開は、「えっ？　そこへ来る？？」と、しっかりエンタテイメント。語り口もユーモラスで構成も工夫されてて◎。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム　　コメント
お勧め度　　読んだ場所　　読んだページ数（時間）　　立ち読みポイント　　投稿時間

ＴＯＰへ

メインテーマは殺人

著者名	アンソニー・ホロヴィッツ	発行年	2019年
出版社名	創元推理文庫	ページ数	496ページ
値段	1,210円	ISBN	978-4488265090
コメント	２年連続「このミス」１位（それも圧勝）は、なかなかの偉業です。構成がしっかりして、キャラも立ってるし、今回は１冊でボリュームも軽めだし、気分転換に良いのでは。 お葬式のシーンのファンキーさに笑いました。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
えると ☆☆☆	私はミステリー小説をシャーロックホームズしか読んだことがないが、まさにそのホームズ・ワトソンの役割分担で自叙的に書かれている作品だった。推理役と記録役の関係だけではなく、現場の刑事との関係なども含め、「クセのある現代ホームズ」といった世界観で描かれていた。 著者の名前を知っていたので、カッコつけて英文の原著を注文しようかと考えたが、私の英語力では絶対に読みきれなかったはずだ。というのも、回想（ドラマではよくモノクロやセピア色で演出されるような）が随所に散りばめられており、とにかく一場面の記述量が長い。現実とフィクションが混ざり、時と場所があちこち動いて不思議な感覚を覚える。 特に序盤は、自分の行動にいちいち外的な要因を求め、理由づけをする作者（＝一人称）に違和感を抱いたが、そこは肝心のオチへのほどよい伏線であった。（その違和感がなければ話の長さ的にオチに気付かなかったかもしれない） 色々なミステリーのランキングで１位を総なめにしている、という期待感から粘り強く読んだが、自分にとって５００ページにわたる本作品はかなり手応えのある読み物だった。 2人の、ときにコミカルなやりとりは、映像作品でこそ活きるのではないかと思う。訳者の方と表現の面で合わない部分があったのか、少しつらい１０時間強だった。 立ち読みポイントは、タイトルがお洒落に刻まれたワンシーンを選んだ。	1-496ページ	496P (600分)	38ページ	2020/11/30 04:30:03

ＴＯＰへ

大家さんと僕

著者名	矢部 太郎	発行年	2017年
出版社名	新潮社	ページ数	128ページ
値段	1,000円	ISBN	978-4103512110
コメント	日本中をなごませた大家さんと売れない芸人さんのほっこりストーリー。そぼくなタッチで、ときどきタクシーが空飛んでたり、シュール･テイストも楽しい。 でも、ただのほっこり系と安心してると、いきなりちくっ、と来ます。ヤマムロは「矢部さんはいいわね　まだまだ何度でも転べて」にやられました。 あなたの身近にも、こんな「大家さん」いませんか？　１時間もあれば読み切れて、見える景色がちょっと変わります。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
あべこべ ☆☆☆☆	この本は「トホホ」な芸人が、移り住んだ住宅の大家さんとの日常を描いた漫画である。大家さんは87を迎える高齢の女性であり、この漫画のいたるところで昔の自分の苦労話や経験談をのべ、「僕」を励ましていく。最初は距離感の近さにとまどい、また話があまりかみ合わないことに困惑していたが、徐々にその距離感に慣れていくにつれ、「僕」は大家さんに影響されていく。しかしそれは大家さんも同様であり、実は大家さんは「僕」が引っ越しする少し前に姉をなくしていて、ショックを受けていたが「僕」とかかわりあうことで元気を取り戻した、と大家さんの友人が言っていた。こうしてお互いに励ましあえる関係に変わっていく漫画である。 日常を描きながらも互いの心理描写が要点でなされており、「僕」も大家さんも少しずつお互いのことを理解し、大切に思っておく過程の描写が面白かった。 また最初は日々の中に死や別れという言葉が大家さんからかなり出てきていたが最後のほうではいろいろと楽しみを持ち、前向きに生きていく大家さんを見ると本当に「僕」と話すうちに元気が出てきたんだ、と思え、互いに影響しあえる関係になったんだな、と思った。手軽に読める作品であり、次を読むのが楽しみである。	4-126	123P (70分)	119-123	2020/11/30 15:38:37

ＴＯＰへ

大家さんと僕これから

著者名	矢部 太郎	発行年	2019年
出版社名	新潮社	ページ数	174ページ
値段	1,100円	ISBN	978-4103512134
コメント	大家さん再び。続編だけでももちろん行けますが、やっぱり本編からゆったりと大家さん矢部さんワールドに浸りたい。 今回の山室的刺さったポイントは「もう・・・矢部さんは戦争にとられたくない」かな。他にもいっぱい。あなたの感慨ポイント、探してください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
あべこべ ☆☆☆☆	この本は大家さんと僕の続編である。前作が賞を受賞、徐々に有名になっていき仕事も増え大家さんと過ごす時間が減っていく「僕」。また大家さんも同様に有名になり、見知らぬ人とのコミュニケーションが書かれるシーンも多かった。そんな他人との時間が増える中でも互いに過ごす時間をとるようにし、年末や誕生日など節目のイベントではともにいる様子が書かれている。 最初はこの本はかけないと言っていた「僕」が大家さんのために本を書くことを決心したり、大家さんも「僕」の前では強がって見せたりと互いに影響されあっているシーンが多数見られ、ほっとした。当たり前の日常の中に少しずつ年齢や価値観の差が書かれ、かみ合わないシーンも多々ありながら互いを気遣える、いい関係であると思う。また景色の描写などの情景描写もところどころでなされ、様々な場面の補完となっている。あまり身近ではない、「トホホな芸人」の日常を描いたいい漫画だと思う。ぜひ『大家さんと僕』から続けて読んでほしい作品である。	4-174	171P (85分)	165-169	2020/11/30 19:53:09

ＴＯＰへ